

平成24年度 在宅医療連携拠点事業成果発表



医療法人明輝会内村川上内科
在宅医療連携拠点事業推進室

<http://www.meikikai.com>

内村川上内科の紹介

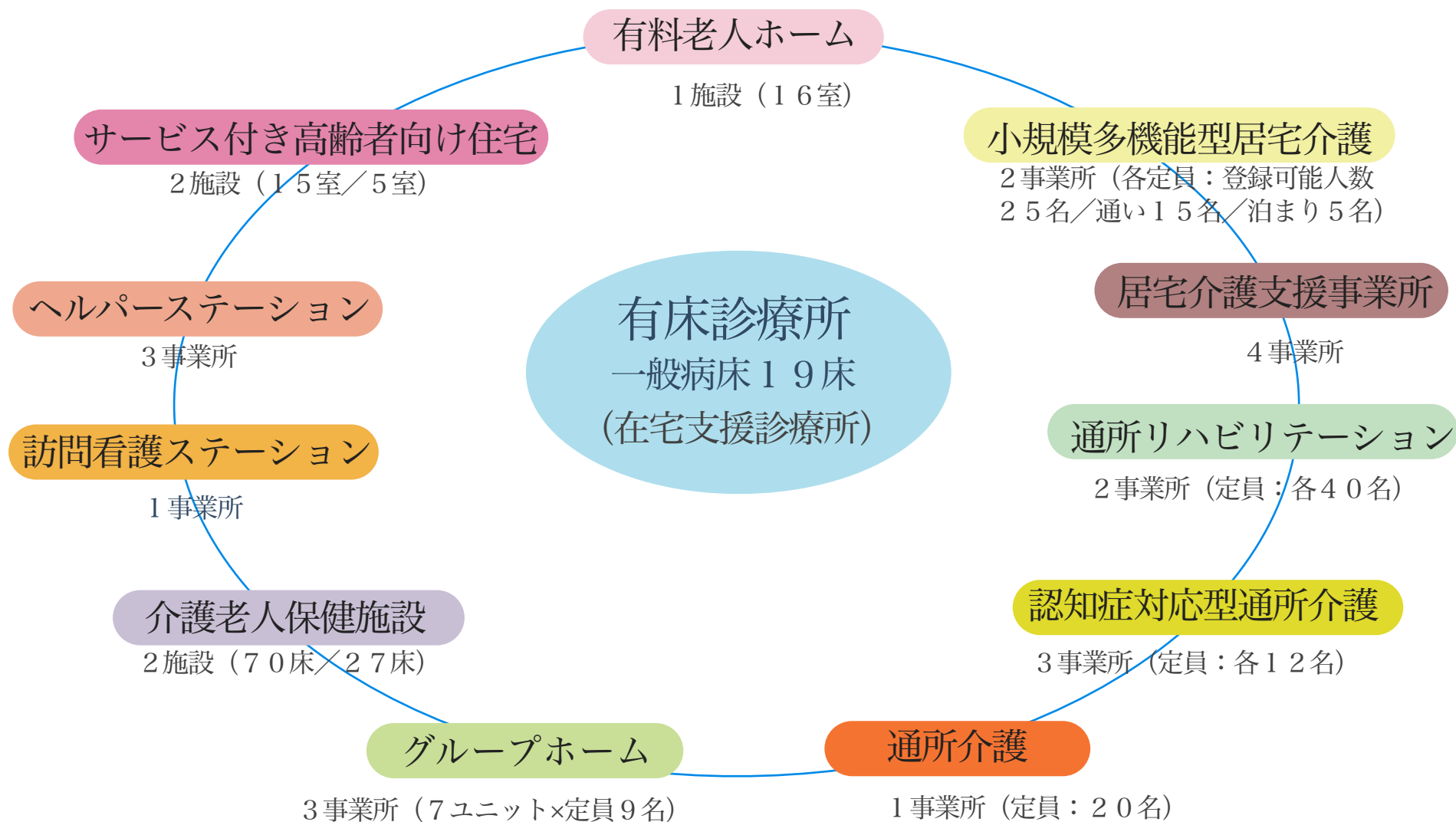
- 鹿児島市北部に位置する有床診療所(19床)
- 診療科目～内科、肝臓内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、放射線科
- 昭和50年の開院当初より地域への往診を積極的に実施
- 平成18年、在宅療養支援診療所の指定を受け、24時間365日、往診体制を確立
- 常勤医2名、非常勤医6名

平均外来数 46.5人/日
平均入院数 18.4人/日
訪問診療件数 約232人/月

(平成25年2月時点)

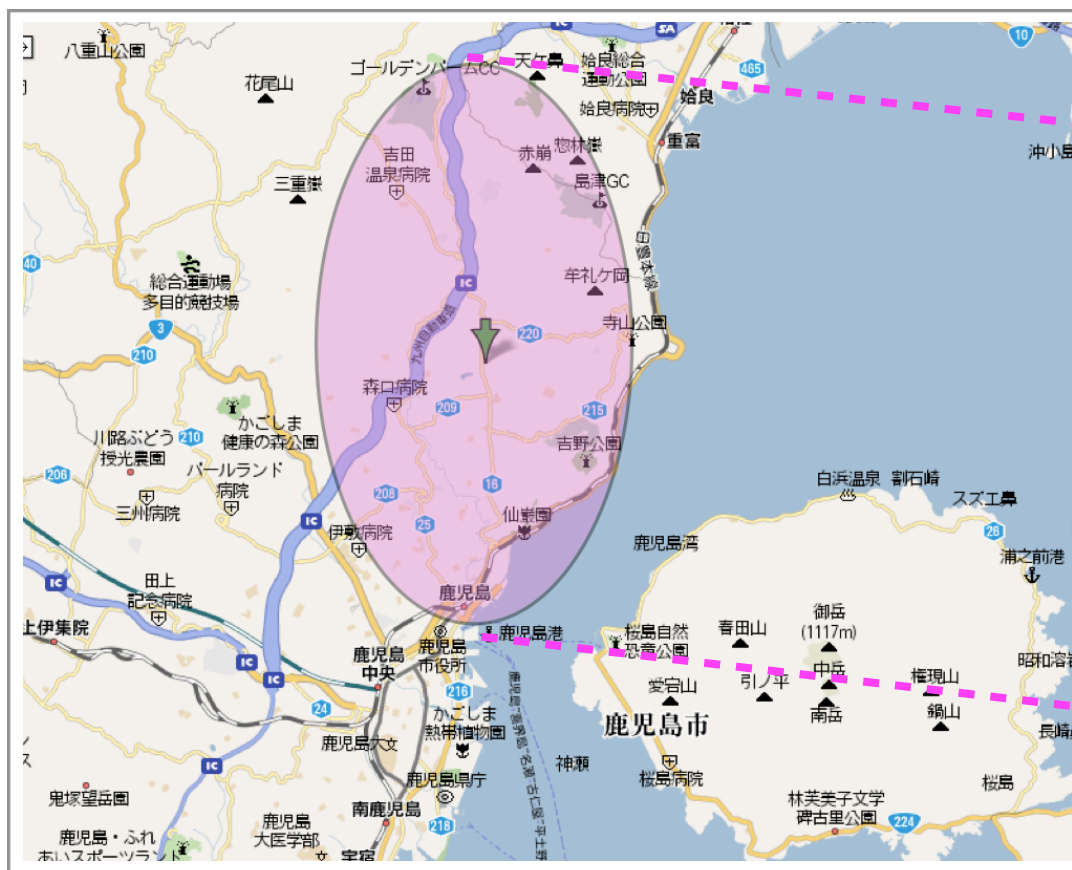


医療と福祉のミニ複合体

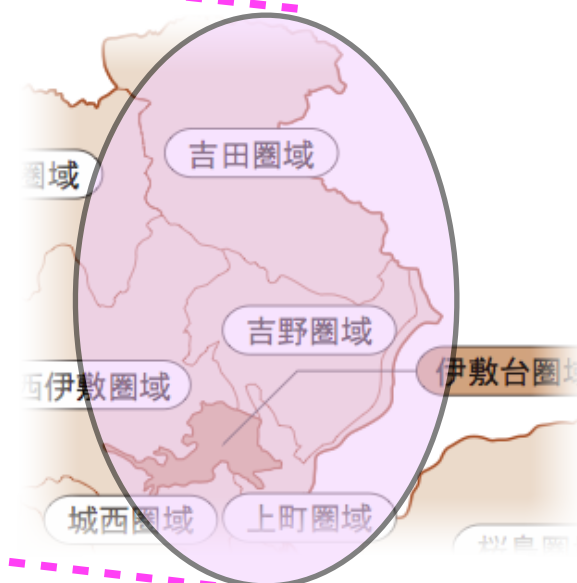


当院の拠点事業の範囲について

- ◆ 日常的に連携する場面が多く想定される医療機関・介護系事業所があり、当院を中心として車で約30分圏内を範囲に設定
- ◆ 鹿児島市医師会支部区分に基づく「上町支部」と「伊敷支部の一部」を事業範囲とし、便宜上【上町地区】と総称



上町地区



～ 引用 ～

※Google マップ

※第5期鹿児島市高齢者保健福祉・介護

保険事業計画 P.44 第5期の日常生活圏域

上町地区の特徴

- ▶人口～約10万5千人（高齢化率 26%）

鹿児島市の区画整理事業に伴い大型商業施設などが
3～4年近くの間に進出し増加傾向

- ▶医療面～高度急性期病床は、最南部にあたる上町に集中
急性期医療が必要な場合は救急車で南下し治療

- ▶在宅医療～長期療養病床は少ない
慢性期医療の担い手は有床
無床の診療所（診療所数55、
在宅支援診療所19ヶ所）

桜島と錦江湾



- ▶ 高齢者医療～有床診療所の存在は重要（有床診療所19）
各診療所が独自に在宅医療にも取り組んでいる
- ▶ 介護施設～措置制度時代から社会福祉法人等の施設があり
代替医療ベットとして需要がある（介護施設15）
- ▶ 介護サービス～訪問・通所系のサービスや地域密着型サービスが早くから定着し、事業所が競合している
- ▶ 地域性～在宅医療を行う地域資源の数は十分に整備
高齢化率は現状維持が予測



おはら祭り
と
西郷どん



上町地区の人口・高齢者人口・認定者数の推移



	平成20年	平成23年	平成24年
上町地区の人口	101,282人	101,145人	105,077人
上町地区の高齢者人口	24,015人	25,288人	27,326人
高齢化率	23.7%	25.0%	26.0%
要介護・支援認定者数	1,272人	5,355人	—

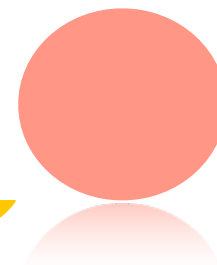
※参考：「第5期鹿児島市高齢者保健福祉・介護保険事業計画（本編）」、鹿児島市ホームページ住民基本台帳人口（H24,9月末現在）

上町地区の医療・介護資源

病院	16	介護老人保健施設	5
有床診療所	19	介護老人福祉施設	10
無床診療所	36	グループホーム	26
歯科医院	36	ケアハウス	3
調剤薬局	20	ヘルパーステーション	29
訪問看護ステーション	8	小規模多機能型居宅介護	4
通所リハビリテーション	16	居宅介護支援事業所	40
デイサービス	46	地域包括支援センター	5
認知症デイサービス	12	保健センター	1

(H25.2.1現在 参考：鹿児島市ホームページ)

これまでの当院の取り組み



- ❖ 上町地区多職種交流会の開催（5回）
- ❖ 地域住民への普及啓発活動（7回）
- ❖ 地域住民向けサロンの開催（6回）
- ❖ 在宅医療に関する勉強会の開催（3回）
- ❖ 在宅医療パンフレットの作成
- ❖ 地域包括支援センターや医療機関との連携
- ❖ 情報共有ツール「キュアケアネット」の開発と運用

交流会事前アンケートの実施

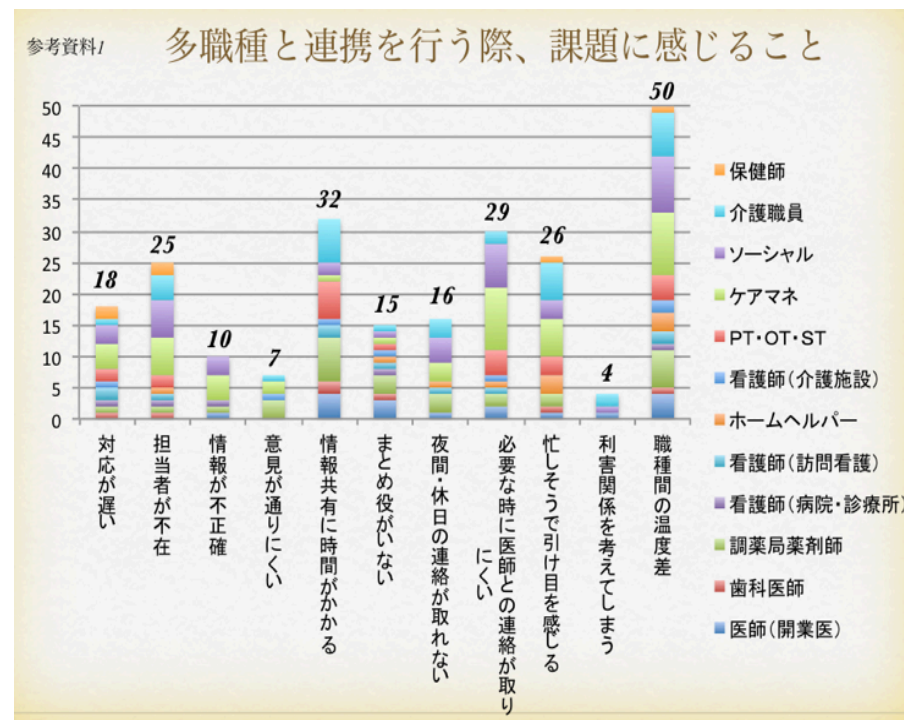
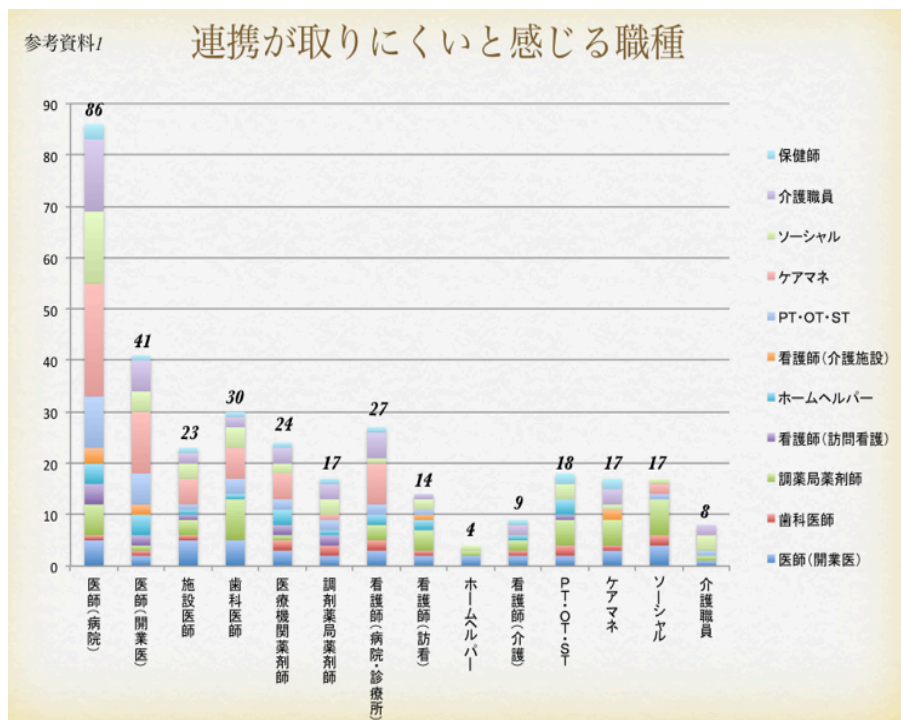
▽アンケートの目的

- ▶在宅医療・介護を行う上で生じる連携上の課題を抽出する
- ▶アンケート用紙をFAX・訪問等にて配布。FAX・訪問にて回収

▽回収結果

配布数	266部
回収数	111部
回収率	41.7%

▽アンケート結果（要約）



第1回上町地区多職種交流会

- 平成24年7月17日、鹿児島市医師会会議室にて開催
- エリア内の医療職、介護職や行政職から69事業所161名参加
- 事前アンケートを基に同職種でグループを構成し、グループワークにて「多職種連携の課題」「多職種への要望」「課題解決のための意見」を抽出



第2回上町地区多職種交流会

- 平成24年9月25日、鹿児島県医師会館大ホールにて開催
- エリア内の医療機関・介護系事業所の65事業所146名が参加
- 限られた時間の中で解決策を導くため、第一回で多く意見の上がっていた課題に議題を絞る
- 「多職種連携を円滑に行う為の情報共有の方法」についてグループワークを行い、解決策や新たな意見などが抽出される



第3回上町地区多職種交流会

- 平成24年11月17日、鹿児島市民文化ホール（市民ホール）にて開催
- エリア内の医療機関、介護事業所だけでなく、鹿児島市全域に案内を行い320名が参加
- 静岡県浜松市の「坂の上ファミリークリニック」より2人の講師を招き、講演会を実施
- 「在宅看取りの現場から」というテーマで、在宅医療の取り組みについて医師、看護師の立場から講演を頂き、聴衆と意見交換を行う



第4回上町地区多職種交流会懇親会

- 平成25年2月15日、城山観光ホテルにて開催
- エリア内の医療機関・介護系事業所の61事業所88名が参加
- 在宅医療連携拠点事業成果報告を行い、参加者の情報交換・顔の見える関係作り構築のためのあわせて懇親会を開催
- 出席の医師、歯科医師より挨拶を頂き、職種間の「敷居の高さ」の軽減を図った



行政・管理者対象上町地区多職種交流会

- 平成24年10月19日、鹿児島県医師会館中ホールにて開催。行政および上町地区の医療機関、介護事業所など40事業所の管理者67名が参加
- 第1回・第2回交流会で抽出された課題や意見、解決策などを報告
- 都道府県リーダー研修にて得た情報の報告
- 「それぞれの立場より在宅医療・看取りを考える」というテーマでグループワークを行い、抽出された意見を国への提言としてまとめた



地域住民への普及啓発活動

○ 地域住民向けフォーラムの開催

- ・ 平成24年10月26日、吉野公民館体育館にて開催
- ・ エリア内の医療機関、介護事業所、鹿児島市役所に協力を頂き、それぞれの紹介ブースを14箇所設置
- ・ 在宅医療について医師より講演会を実施
- ・ ブース関係者・地域住民など合わせて102名参加
- ・ 参加者からは「訪問診療と往診の違いがよく分かった」「また開催して欲しい」と好評であった

○ 鹿児島市北部保健センターでの講話、地域行事への参加

- ・ 講座後、在宅医療について講話を行う
- ・ 平成24年7月12日、26日と開催し、計97名参加
- ・ 地域の敬老会、ふれあい会食、おたっしゃクラブなどへ参加し、パンフレット紹介など実施

○ パンフレットの作成

- ・ 在宅医療連携拠点事業についての説明・紹介を目的としたものと、一般の方向けに在宅医療の啓発を目的としたものの二部を作成
- ・ エリア内の医療機関・介護事業所・地域包括支援センターへ無料で送付



地域住民向けサロンの開催

- ・ ボランティア養成を目的とした地域住民向けサロンを月1回開催
- ・ 講座受講者と在宅介護について意見交換会や在宅医療パンフレットの活用し啓発活動を行った
- ・ 「家の近くでこのような会があると参加しやすい」「お友達が出来、参加が楽しみ」と受講者には好評であった



在宅医療に関する教育・研修

○ 医療と介護の勉強会の開催

- ・ 講師を招き「褥瘡ストーマケア」勉強会を開催
- ・ エリア内の訪問看護ステーション、訪問リハビリ、ヘルパーステーション、デイサービスより23事業所、合計55名が参加

○ DVDによる研修会

- ・ 国立長寿医療センター制作のDVD「在宅医療の風命と生活を支える」の視聴による研修を実施
- ・ 法人内15事業所、合計113名が参加し、在宅医療の重要性について理解を深めた



医療機関・地域包括支援センターとの連携

○ 地域医療機関（医療相談員）との連携

- ・ 退院後、在宅医療を検討しているケースのカンファレンスに出向き、地域医療機関と顔の見える関係作りが出来た
- ・ 終末期の在宅医療相談が昨年よりも増加した
- ・ 定期的にエリア内の医療機関を訪問し、在宅医療連携拠点事業について説明の機会を持つことで事業の周知が図れた

○ 地域包括支援センターとの連携

- ・ 地域ケア会議に参加
- ・ 在宅医療連携拠点事業についての周知は図れた
- ・ 地域包括支援センター経由の相談事例もあった



当院における多職種連携



○ 当院の病棟回診・カンファレンス

- ・ 毎週月曜日の午後、病棟回診を開催
- ・ 医師、病棟看護師だけでなく、訪問看護ステーション、理学療法士、管理栄養士、臨床放射線技師、ケアマネジャー、医療ソーシャルワーカー、事務職員など患者に関わる多職種が参加している
- ・ 合わせてカンファレンスを行い、医療と介護の情報共有を行っている

キュアケアネットの開発と運用

- 在宅医療の質を高めるために情報共有を図れる何か便利なシステム（ツール）が必要
- 安価で使いやすい情報共有システム「**キュアケアネット (CCN)**」を我々自身で開発し使用中

The screenshot shows a web application interface for a patient named 'demo1'. It includes a profile picture, personal information (name, birth date, introduction), medical history (visits, prescriptions), and a list of medications. The interface is clean and organized, with a blue header and a sidebar for navigation.

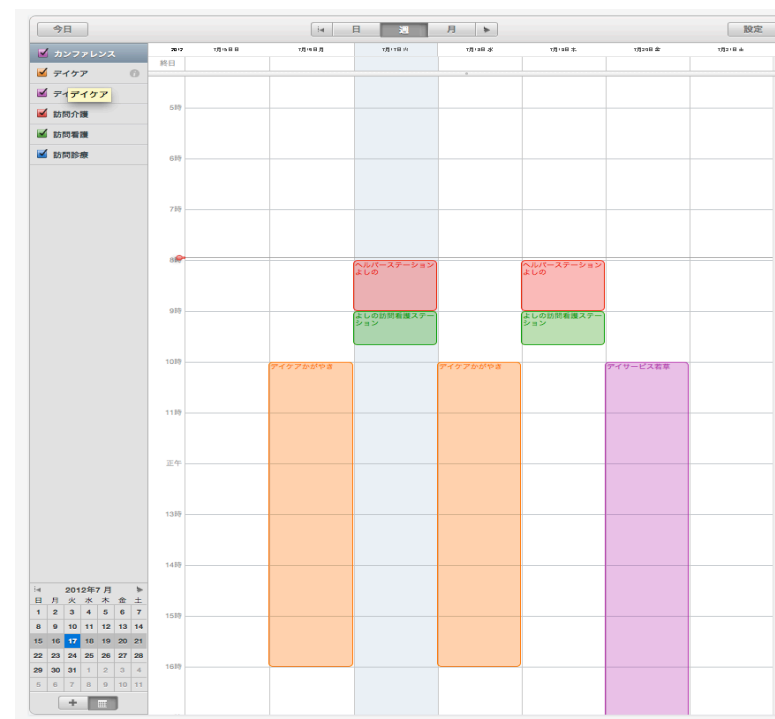
氏名	demo1
生年月日	1911/01/01
紹介医	紹介医 1

訪問診療	内科/小児科	月2回訪問診療 在宅療育
療科往診	〇〇療科	月1回訪問診療
調剤薬局	〇〇調剤薬局	配達

2012年7月24日現在の定期処方

- 1 アスピリン錠200mg 1,000 錠
朝食後 1 x 40 日分
- 1 ゼーファ錠10mg 1 錠
クレストール錠2.5mg 1 錠
ミオナール錠50mg 1 錠
タケプロンOD錠15 15mg 1 錠
エバール錠600 900mg 1.0 包
朝食後 1 x 30 日分
- 1 ツムラ熱風湿痛散エキス錠剤(高費用) 2.5 g
朝食前30分前 1 x 40 日分

主治医	ドクターdemo
CM	クアマデモ
家族構成	



キュアケアネット(CCN)とは

- 我々のアイデアをもとに、我々自身が試行錯誤しながら作ったシステムである
- 初期費用は約25万円と非常に安い。その後の維持費は電気代とインターネット料金だけ
- セキュリティーと個人情報保護にも十分に配慮した
- 一人の患者にアクセスできるのは、アクセス権を持った人だけ。たとえば、主治医、訪問看護師、ケアマネジャー、ヘルパーなど
- アクセス権の設定は我々自身で行うのでいつでもアクセス権のオンオフが迅速にできる
- 経時的にメモを残したり、患者のスケジュールを書き込んだカレンダーを見たり書いたりできる
- これらのすべての作業をパソコン、スマートフォン、タブレット端末からアクセスし、情報を見たり、書いたりできる

法人内勉強会の開催



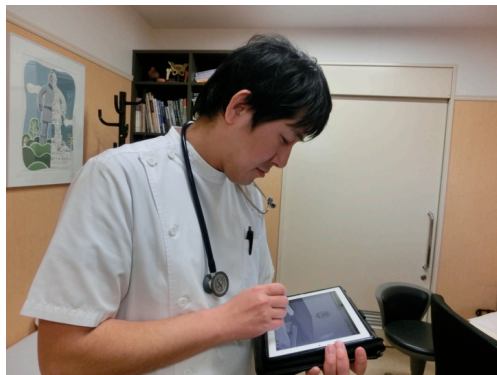
← CCN導入について説明会

医師・看護師・医療事務・居宅ケアマネ・施設ケアマネ・グループホーム・デイケア・デイサービス・ヘルパー事業所が参加者

iPad mini講習会 →

医師、看護師、医療事務、グループホーム、有料老人ホーム担当者が参加
iPad miniを利用した訪問診療時の記録作成について講習会を開催





主治医

医療情報の入力、患者状態や検査結果、質問事項へ返答など
*自宅でもアクセス可



訪問看護師

往診結果・検査結果の記載、特別指示・処置の記載、主治医 I C、入退院の連絡など
*関係者に一斉に情報が伝えられ記録として残る



居宅・老健ケアマネ

介護保険情報の入力、緊急ショートや利用サービスの変更、サービス担当者会議の要約、入退院、施設入所の連絡など



グループホーム 有料老人ホームなど

他科受診（歯科や皮膚科など）結果、状態報告、相談事項など

多職種の 記載事項

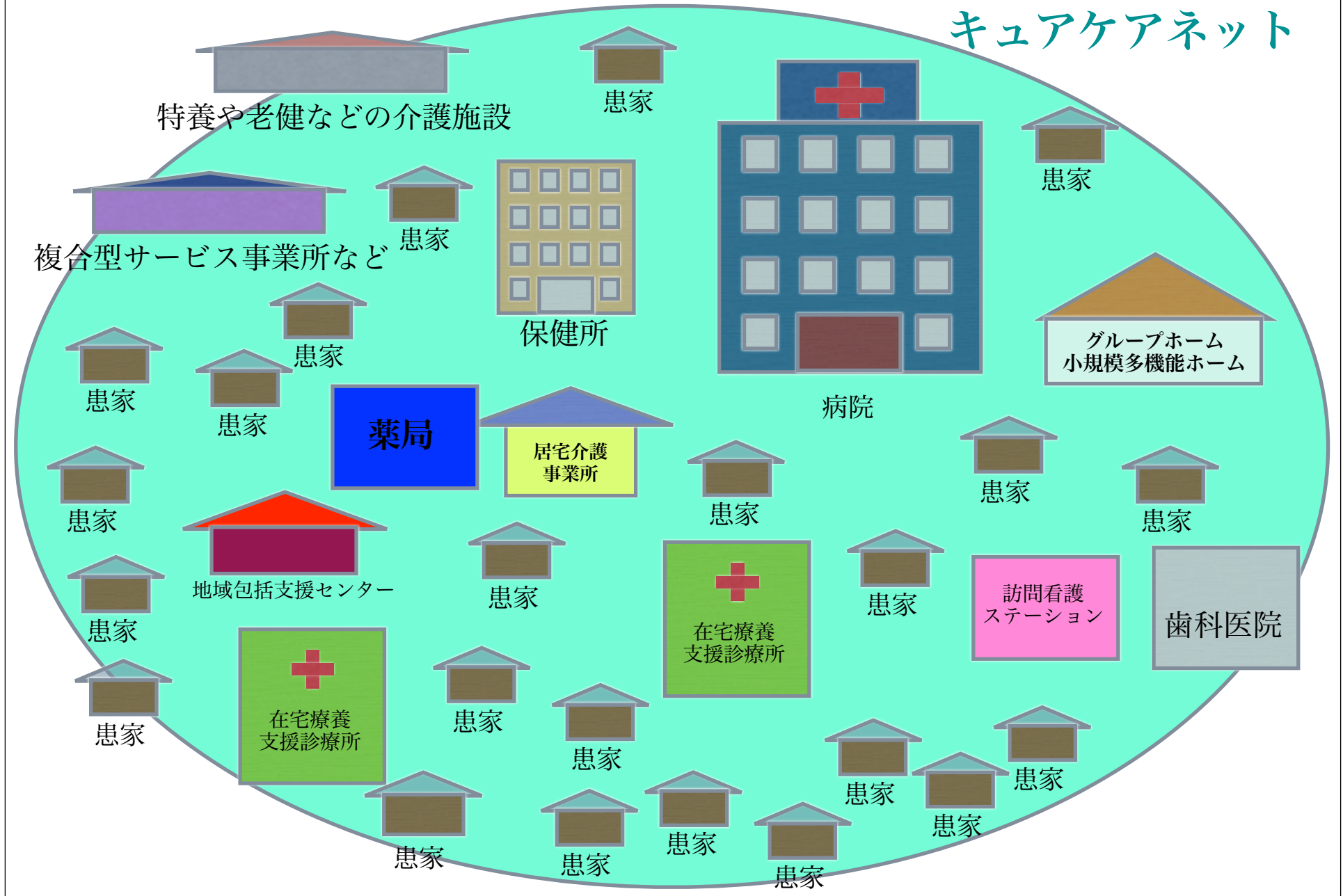


医事課・クレーク

新規患者の登録、医療情報の入力、処方内容の記載、各種保険者証、手帳などの添付
*電子カルテから添付できる

上町地区に住む在宅患者を連携する

キュアケアネット



拠点事業の活動を通して

- ＊ 交流会や訪問を通して、地域の医療機関や介護事業所等へ在宅医療連携拠点事業の必要性や重要性の周知は図れた
- ＊ 一法人の呼びかけでもある程度は実施できたが、ステークホルダーの調整やより多くの医師に参加してもらうには行政・医師会の働きかけが必要不可欠である
- ＊ 地域住民へ在宅医療について普及啓発するためには、周知方法の工夫と継続した働きかけが必要である
- ＊ 情報共有ツールの利用で多職種間の情報連携が円滑に行えることがわかった